

D リスニング

1 リスニングの概要

(1) リスニングを実施する教科・科目

リスニングは外国語「英語」の一領域として実施します。外国語において「英語」を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を受験してください。

なお、「英語」以外の外国語の筆記を受験した場合、リスニングを受験することはできません(→p.4)。

(2) 試験時間・解答時間

リスニングは、IC プレーヤーを使い受験者が個々に音声を聞き取りながら解答する試験です。試験時間 60 分の中で、解答開始前に IC プレーヤーの操作準備・作動確認・音量調節を受験者本人が行った後、30 分間で解答します(→p.37)。

なお、筆記とリスニングの間には、休憩時間が設けられています。

(3) リスニングにおける受験上の配慮

病気・負傷や障害等のために、リスニングにおいて配慮を希望する者は、受験上の配慮を申請してください(→p.13)。

(4) イヤホン不適合措置

リスニングで使用する IC プレーヤーに付属しているイヤホンが耳の形に合わず装着できないため、ヘッドホンの貸与を希望する場合は、「イヤホン不適合措置」を申請してください(→p.40)。上記(3)の受験上の配慮とは申請方法が異なるので注意してください。

2 リスニング受験上の注意

(1) リスニングでは、遅刻者の試験室への入室限度が他の試験時間と異なります。試験開始時刻(17:10) までに入室していない場合は受験することができないので十分注意してください。

(2) リスニングは、受験者が個々に音声を聞き取りながら解答する試験です。他の受験者の聞き取りに支障をきたす不必要な音をたてることがないように注意してください。

(3) 解答時間中の質問は、一切受け付けません。

(4) IC プレーヤーのボタンを長く押し続けてもランプが光らなかったり音声が流れなかったりした場合や、音声が途中で停止したりして聞き取れなくなった場合、問題冊子の乱丁、落丁等で解答に支障がある場合は、ためらわずに黙って手を高く挙げて、監督者に知らせてください。

なお、試験が終わってから、これらを申し出ることはできません。

3 リスニングの進行

(1) リスニングの進行の概要

リスニングの進行の概要は、次ページのとおりです。

- ① 17時10分までに試験室に入室していなければ、リスニングは受験できません。
- ② 各受験者に、問題冊子と解答用紙のほか、「IC プレーヤーとイヤホン」、「音声メモリー」を配付します。
- ③ 解答用紙裏面の表示（→p.38）に従い、IC プレーヤーの操作準備を、受験者が各自で行います。
- ④ 監督者の「確認はじめ」の指示により、IC プレーヤーの確認ボタンを作動中ランプが赤く光るまで長く押し、確認音声を再生させ、それを聞きながら音量つまみを回して音量を調節し、IC プレーヤーが正常に動くことを確認します。
- ⑤ 監督者の「解答はじめ」の指示により、IC プレーヤーの再生ボタンを作動中ランプが赤く光るまで長く押し、問題音声を再生して解答を開始します。
- ⑥ 問題音声は設問ごとに2回流れます。1回目の音声と2回目の音声が流れた後にはそれぞれ、問題冊子を読んだり、解答するために音声の流れない時間があります。
- ⑦ 解答は設問ごとに解答用紙にマークします。問題冊子に記入しておいて、解答時間の途中や最後にまとめて解答用紙にマークしてはいけません（まとめてマークする時間は用意されていません。）。
なお、質問文と選択肢は、すべて問題冊子に印刷されています。

(2) 試験終了後のICプレーヤー等の取扱い

IC プレーヤー及び音声メモリーは、試験終了後に回収します。ただし、問題冊子、イヤホンは持ち帰ってください。なお、問題音声は、試験終了後に大学入試センターのホームページ（→裏表紙）からダウンロードすることができます。

英語筆記試験

16:30 英語筆記試験終了

この休憩時間中に

- 携帯電話や時計など音の出る機器のアラーム設定を解除する。
- 携帯電話や音の出る機器の電源を切る。

17:05 受験者入室終了

17:10 試験開始 (*この時刻までに必ず入室)

- 解答用紙に、受験番号・氏名・試験場コードを記入・マークする。
- 解答用紙裏面の表示に従い、IC プレーヤーの操作準備を行う。

確認はじめ

(監督者指示)

確認音声



(約 2 分間)

- 確認音声 (試験問題ではない) を聞いて、IC プレーヤーが正常に動くことを確認し、音量を調節します。

* IC プレーヤーに不具合があった場合は、ここで新しいものに交換し、再度、音声確認を行う。

解答はじめ

(監督者指示)

問題音声



(約 30 分間)

- 問題音声の進行に従って、問題を解答します。
- 必ず、設問ごとに解答用紙にマークします。問題冊子に記入しておいて、解答時間の途中や最後にまとめて解答用紙にマークしてはいけません。

解答やめ

(監督者指示)

18:10 試験終了

- 答案回収
- IC プレーヤー・音声メモリー回収

受験者退室

【IC プレーヤーの操作】

1 監督者の指示で「電源ボタン」を「電源ランプ」が緑に光るまで長く押し続ける。



2 監督者の指示でイヤホンを耳につけ、「確認ボタン」を、「作動中ランプ」が赤く光るまで長く押してから、音声を聞きながら音量つまみを回して音量を調節する。



音声中の指示でいったんイヤホンを耳から外す。



3 監督者の解答開始の指示後、イヤホンを耳につけ、「再生ボタン」を、「作動中ランプ」が赤く光って音声聞こえるまで長く押し続ける。

* 音声に不具合があれば、ためらわずに、黙って手を高く挙げる。
(→p.41)



音声中の指示でイヤホンを耳から外す。

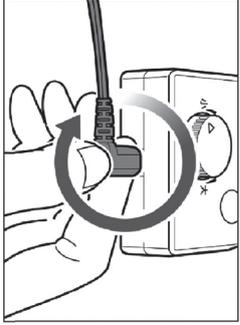
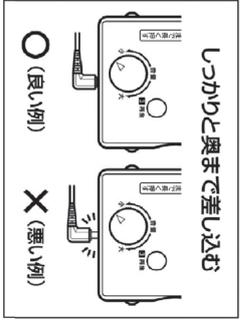
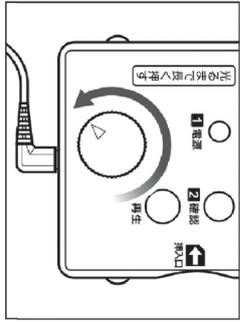
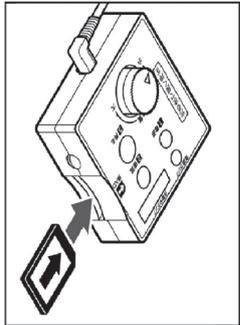
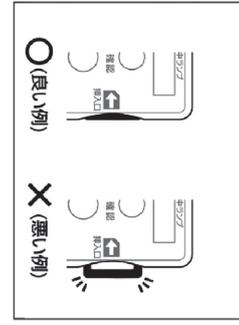
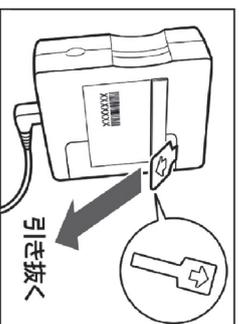
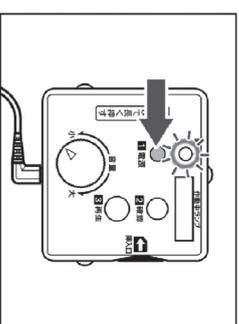
4 ICプレーヤーの操作

(1) ICプレーヤーの操作準備

ICプレーヤーの操作準備は、解答用紙裏面の表示（下図）に従い、①～⑤を受験者が各自で行います。⑥～⑧は、それぞれ監督者の指示があるまで行うことができません。

裏面

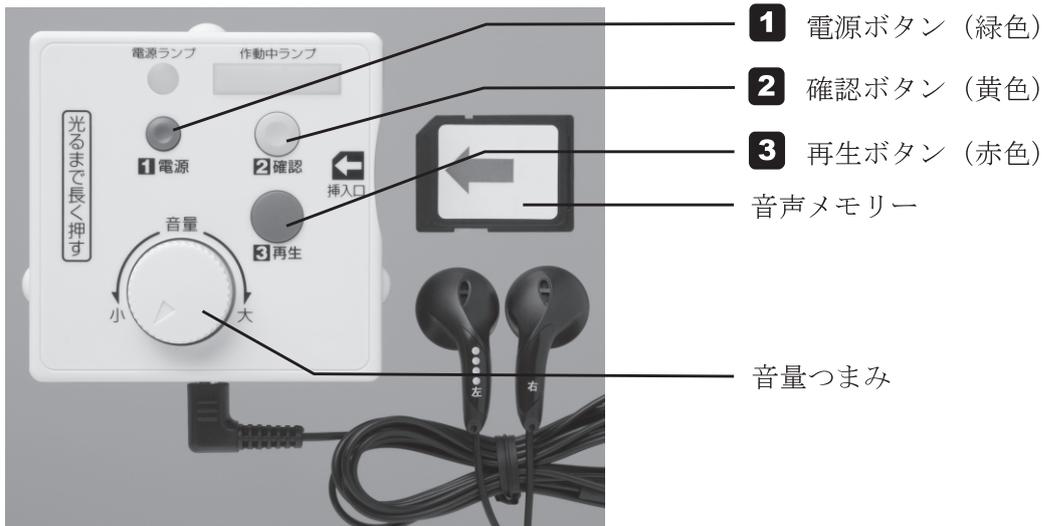
＜ICプレーヤーの準備方法＞

| | | | |
|--|---|---|--|
| <p>① ICプレーヤー、イヤホンを袋から取り出し、イヤホンのプラグをゆっくりと一回転させる。</p>  | <p>② 念のため、イヤホンをもう一度押し込み、奥までしっかりと差し込まれていることを確認したのち、イヤホンの「コードどめ」をほぐく。</p>  | <p>③ 音量つまみを左方向に回して、最小になるようにする。</p>  | <p>④ 音声メモリーを袋から取り出し、矢印の面を表にして、奥に突き当たるまでしっかりと差し込む。</p>  |
| <p>⑤ 音声メモリーが正しく差し込まれているか確認する。 (注1) 正しく差し込まれていることを確認した後は音声メモリーには触らないこと。 (注2) 次の指示があるまで⑥には進まないこと。</p>  | <p>⑥ ICプレーヤー裏側の「絶縁シート」を引き抜き、必要のないものは、ICプレーヤーが入っていた袋の中に入れる。 (注1) 引き抜くときに表面のボタンを押さないように注意すること。 (注2) 次の指示があるまで⑦には進まないこと。</p>  | <p>⑦ ①の「電源ボタン」を「電源ランプ」が光るまで長く押し続ける。 (注) 次の指示があるまで⑧には進まないこと。</p>  | <p>⑧ イヤホンの左右を確認してから、耳に付けて、②の「確認ボタン」を、「作動中ランプ」が光るまで、長く押し続ける。 「作動中ランプ」が光ったら音量つまみを回して聞きやすい音量に調節する。</p> <p style="font-size: 0.8em;">※左右を確認して装着する ↑コードは前に</p>  |

⑥～⑧は、それぞれ監督者の指示を待つこと

(2) ICプレーヤーの操作

【各部の名前】



【IC プレーヤーの操作】

| | |
|--------------------|--|
| ① 電源を入れる | 1 電源ボタンを、電源ボタンの上にある「電源ランプ」が緑に光るまで長く押し続ける。 |
| ② 作動確認 (確認音声再生) | 2 確認ボタンを、「作動中ランプ」が赤く光って確認音声が出るまで長く押し続ける。 |
| ③ 音量調節 | 音量つまみを、右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなる。(試験の最中いつでも調節可能です。) |
| ④ 解答開始 (問題音声再生) | 3 再生ボタンを、「作動中ランプ」が赤く光って問題音声が出るまで長く押し続ける。 |

(3) ICプレーヤーの操作の注意点

- ① IC プレーヤーはボタンを単にひと押ししただけでは、作動しません。**1**「電源ボタン」は「電源ランプ」が緑に光るまで、**2**「確認ボタン」と**3**「再生ボタン」は「作動中ランプ」が赤く光って、音声が流れるまで、長く押し続けます。
- ② **1**「電源」、**2**「確認」、**3**「再生」の順番を守らないボタン操作は受け付けません。
- ③ IC プレーヤーには「一時停止」、「早送り」、「巻き戻し」の機能はありません。
- ④ 音声メモリーの挿入方法はプッシュイン／プッシュアウト方式のため、一度挿入された音声メモリーを押すと、音声メモリーが飛び出します。再び挿入しても、音声を再生することはできませんので、正しく挿入されたことを確認した後は、音声メモリーに触れないでください。

5 IC プレーヤーの操作体験

大学入試センターのホームページ（→裏表紙）にある「IC プレーヤー操作ガイド」では、IC プレーヤーの操作を体験することができます。IC プレーヤーの 3 つのボタンの長押しの方法や、操作上の注意事項、リスニングの流れが分かるようになっています。また、これまでの試験で実際に使用された問題音声を聞くことができます。

6 イヤホンが装着できない場合

(1) イヤホン不適合措置について

今回の試験で使用するイヤホンは、平成 25 年 1 月の試験で使用したものと同じです。

このイヤホンが耳の形に合わず装着できないため、ヘッドホンの貸与を希望する場合は、出願時にイヤホン不適合措置を申請する必要があります。

(2) イヤホンの装着具合の確認

あらかじめ、在学する（又は出身）高等学校等や最寄りの大学入試センター試験参加大学等で実際にイヤホンを装着して耳に合うかどうかを確認し、イヤホンが耳の形に合わず装着できない場合は、必ず出願時にイヤホン不適合措置を申請してください。

(3) 申請方法

イヤホン不適合措置を希望する志願者は、出願時に、「イヤホン不適合措置申請書」を提出する必要があります。次の枠内の①又は②の方法により申請書を入手し、最寄りの大学入試センター試験に参加する大学（大学入試センターのホームページ（→裏表紙）に掲載しています。）の入試担当窓口で志願者本人が出向き確認の署名をしてもらった後、志願票（第Ⅱ面）の所定の欄（→p.18）にはり付けて出願してください。

詳しい申請書の記入方法や申請方法は、「イヤホン不適合措置申請書」に記載してあります。

なお、離島に居住している等の理由で、最寄りの大学入試センター試験に参加する大学で確認の署名をしてもらうことが困難な場合は、平成 25 年 10 月 11 日（金）までに大学入試センター事業第 1 課（→裏表紙）に相談してください（出願期間は志願者問い合わせ専用電話が混み合いますので、早めに相談してください。）。

① 大学入試センターのホームページ（→裏表紙）の「センター試験英語リスニング」からダウンロードしてください。

② ホームページからダウンロードできない場合は、次のア・イを封筒（表面に「イヤホン不適合措置申請書請求」と朱書すること。）に入れて大学入試センター事業第 1 課（→裏表紙）に送付してください。

ア 氏名、現住所（郵便番号を含む）、電話番号、在学（又は出身）学校名を記入した便せん等

イ 返信用封筒（長形 3 号：縦 23.5cm・横 12cm、表面に現住所・氏名を記入し、80 円分（速達希望の場合は 350 円分）の切手をはる。）

(4) 注意事項

出願時にイヤホン不適合措置の申請がない場合は、ヘッドホンの貸与は行いません。

また、試験当日にイヤホンが耳に合わないと申し出ても、対応しません。この場合、イヤホンを

手で押さえて受験することになります。

なお、出願後の不慮の事故等（交通事故、負傷、発病等）のため、イヤホンを装着できなくなった場合は、出願後の不慮の事故等による受験上の配慮（→p.34）によりヘッドホンの貸与を申請することができます。

7 解答時間中の事故等と再開テスト

(1) 解答時間中の事故等への対応について

- ① IC プレーヤーの音声 que 停止する等により聞き取れなくなった場合、または問題冊子の乱丁・落丁等で解答に支障がある場合は、ためらわずに黙って手を高く挙げて、監督者に知らせてください。試験が終わってから、これらを申し出ることはいできません。
- ② 解答時間中に挙手した場合の監督者との意思伝達については、周囲の受験者の解答の妨げにならないよう筆談で行います。
- ③ IC プレーヤーの不具合等を申し出た受験者については、申出の内容や再開解答番号（試験が中断した時点で解答していた番号）について確認した上で、試験終了後に「再開テスト」を実施します。
- ④ 体調不良等により退室が必要となる受験者がいる場合は、監督者から周囲の受験者に対し、試験の中断を指示することがありますので、その際は、監督者の指示に従ってください。中断を指示された受験者は「再開テスト」を受験することができますので、試験終了まで静かに待機しててください。

(2) 再開テストについて

解答時間中に、解答が続行できないような不慮の事故等があった場合には、監督者の指示で試験を中断することがあります。このようなときには、リスニングの試験終了後、別の IC プレーヤーを使って当初解答していたものと同じ試験問題により、中断した設問から試験を再開します（この試験を「再開テスト」といいます。）。

なお、解答時間中に日常的な生活騒音等が発生し、解答に支障があったと申し出ても、再開テストの対象とはなりません（→p.43）。